

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 12日

事業所名 児童デイサービス olive

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7名		子どもたちが自ら行動しやすいよう絵カードの提示やロッカーの配置を検討したり、スペースを間切りするなど工夫しています。	利用定員の管理徹底に努めます。
	2	職員の配置数は適切である	7名		定員児童10名に対して保育士・指導員2名以上配置しています。	適切配置人数を守っていきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7名		・カーテンテープを貼り付けての注意喚起や補助を行い、スムーズに使用できるようにしている。	・トイレの出入口に段差があり工夫が必要と感じている。今後は補助用具を検討しバリアフリー化を行っていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7名		・開けた空間で利用児も情報をキャッチしやすいようにしている。 ・毎日子どもたちとおやつ後の雑巾がけや清掃・消毒をしている。 ・日々の振り返りや会議での意見が活発に出ている。・パート職員との連携を図る為、連絡ノートを活用し情報共有に努めている。	今後も環境整備に努めていきます。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7名		・意見を受け止め、職員間で情報共有し改善に努めている。	今後も意見を出し合い、業務改善に努めていきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7名		・毎年、ホームページにて公表を行っています。	・ホームページの周知を図っていきます。 ・結果を踏まえ会議を持ち業務改善に努めています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7名		・外部評価は実地していないが、結果を踏まえ会議を開き業務改善に努めていきます。	・外部評価は実地していないが、結果を踏まえ会議を開き業務改善に努めていきます。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3名	4名	・職員へ研修案内し参加する機会を設けている。	研修案内の周知・事前検討に繋がられるようにしていきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7名		・個々の特性や状況を観察し、モニタリング等で課題を整理し作成している。	保護者からの聞き取りの上、児童発達支援管理責任者だけでなく、職員間で会議を開き色々な意見を基に検討し作成しています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7名		所内アセスメントツールを使用し、保護者、関係機関との情報共有に努めている	・年齢の幅が広く、特性も様々。ツールの活用と気づきの視点が必要。所内のアセスメントシートを利用したり、保護者や医師からの診断書などで発達状況を把握し支援へつなげていきます。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6名	1名	児童発達支援計画は児童発達支援ガイドラインに沿って作成しています。	今後も継続し、必要に応じて見直しや改善に努めていきます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7名		児童発達支援計画を適宜確認し、個々にあった支援を行っています。	今後も継続し、必要に応じて見直しや改善に努めていきます。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7名		一人ひとりの発達状況を、職員間で確認しながら立案している。コンディションによっては内容を見直し、変更を行っている。	今後も継続して取り組めるように努めていきます。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7名		職員会議でアイデアを出し合い、活動が偏らないよう工夫しています。	今後も継続して取り組めるように努めていきます。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7名			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
児 供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	7名		一人ひとりの発達状況を、職員間で話し合い、確認しながら児童発達支援計画を作成している。	今後も継続し、必要に応じて見直しや改善に努めていきます。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7名		・開始前には活動についての打ち合わせと役割分担、ホワイトボードへ当日のスケジュールの書き出しを行っている。	今後も継続し、必要に応じて見直しや改善に努めていきます。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7名		活動の様子を記録しながら振り返り、共有している	今後も継続し、必要に応じて見直しや改善に努めていきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7名		・動画や写真で活動の場面・状況を記録し検証・改善に努めている。	今後も実施に努めます。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7名		・モニタリングを行い、6か月に一度見直しを実施している。	今後も継続し、必要に応じて見直しや改善に努めていきます。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7名		・管理者や児童発達支援管理責任者など適任者が参加しています。	今後も実施に努めます。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6名	1名	・幼稚園・保育所等とのモニタリングへの参加や送迎時の申し送りなど情報共有し支援につながるよう努めています。	・職員間で、モニタリング後の報告や関係機関との連携を周知していきます。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1名	6名		該当児なし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6名	1名		該当児なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4名	3名	・保護者からの移行先確認後、担当者会議等にて情報を提供し、共有と相互理解を図るように努めています。	今後、職員へ情報共有を徹底し、周知・理解に努めていきます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6名	1名	・保護者からの移行先確認後、担当者会議等にて情報を提供し、共有と相互理解を図るように努めています。	今後、職員へ情報共有を徹底し、周知・理解に努めていきます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5名	2名	・県や市の研修に参加し、助言を受け支援の改善につなげています。	デイでの困り感を委託相談員へ相談し行動観察、助言をいただいています。今後、さらに職員への周知・理解を深めていきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1名	6名	児童館の利用や自治会の利用、個々での交流、地域の公園を利用し、同じ空間を共有しています。	現状として保育所や幼稚園に併用利用児が多い。保護者の要望や必要に応じて個別で設定していくことも検討していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		7名	今年度は案内がない状況であった。	コロナ過の影響もあり、開催の有無が定かではないため、今後は情報収集に努め、必要に応じて参加出来るようにしていきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7名		日々の活動の状況や成長の様子を動画や写真で送ったり、送迎で伝えたりする事で共通理解ができるようにしています。	今後も保護者と密に関わりながら、共通の認識を持って支援を行っていきます。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6名	1名	・町からの案内を個別に配布し、周知をかける。	家族支援として、ペアレント・トレーニング研修の案内等を行っているが参加率が低い。案内の仕方に工夫が必要。今後は個別で保護者の相談(事業所内・LINE・電話など)を行う中で、適宜案内するなど検討していきます。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7名		・就学前には上限額の確認、説明を行っている。	契約時に保護者に分かりやすく、丁寧に説明しています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7名		・事業所での様子を伝えながら次のステップ(計画)説明を行っている。	今後も分かりやすく丁寧な説明をしていきます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7名		・送迎での会話を大切にし、その際に得た内容を管理者へつなぎ、相談の機会を設けられるようにしている。	今後も、日々の送迎時での申し送りやLINEでの連絡をこまめに行う事で、保護者が話しやすい環境作りをしています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7名		・互いの親子関係を紹介しあう仲立ちをしている。	コロナが緩和したことで今年度より保護者会の開催を行っています。今後も保護者・子どもたちが参加しやすい内容を検討し、保護者間交流を深めていきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7名		・保護者が不安にならないよう、相談があった場合は職員間でも話し合い、迅速に対応している。	日々の送迎時での申し送りやLINEでの連絡をこまめに行う事で、保護者が話しやすい環境作りをし、相談や申し入れについてが迅速に行えるようにしています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6名	1名	・利用予定を確認する際に、個別に活動や行事の周知を図っている。	今後も保護者に対し毎月の予定表や日常的にLINEの活用などを行い、職員間での周知・理解を図っていきます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7名		・書類はシュレッダーを使用し情報の流出防止に努めている。	個人情報が記載された書類は管理者の管理のもと厳重に保管をしています。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7名		・外国人の保護者へ翻訳アプリを利用し意思の疎通が出来るよう努めている。	日々の活動の状況や成長の様子を動画や写真で送ったり、送迎で伝えたりする事で意思疎通ができるように配慮しています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1名	6名	・地域の保育実習生やインターシップを積極的に受け入れている。	興味、理解を頂ける地域の方との交流から努めていく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6名	1名	毎月、避難訓練(地震・津波・火事・不審者)を取り入れ実施しています。	マニュアルについては整備・閲覧が出来るよう所内に設置し、職員・保護者に周知を図っていきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7名		毎月、避難訓練(地震・津波・火事・不審者)を取り入れ実施しています。	今後も実施に努めます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこのどもの状況を確認している	6名	1名	・所内アセスメントシートを利用し情報を共有している。	服薬やてんかん、アレルギーの有無は記載あるが、予防接種の有無は項目にない為、書式の見直しを行い、改善していきます。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4名	3名	・対象となる食べ物を提供していない。	・保護者からの申告が多い為、保護者への再確認を行い、安全面に充分気を付けていきます。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7名		・所内でのヒヤリハット報告を記入し、店舗間で共有、事故防止に繋げている。	あらゆる可能性を考慮し、事故防止につなげていくようにしていきます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7名		・適宜所内で研修を行っている。 ・資料を確認しながら、振り返り確認している。	今後も実施に努めます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7名		・身体拘束の適正化運営基準の整備を進行している。	該当児はなしたが、身体拘束の認識を再確認し周知を図っていきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。